

5

外国籍県民の人権

どんなことができるかな

1 対象

小学校4年生～6年生、中学生

2 ねらい

- ・日常の学校生活における自分自身のあたり前の感覚を見つめなおし、一人ひとりに様々な文化とのつながりがあることに気づく。
- ・外国につながるの友だちの気持ちを想像し、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養う。

3 準備するもの

○ワークシート

4 解説

平成31年1月1日現在、神奈川県における住民基本台帳上の外国人数は212,567人で国・地域数は174か国となっており、その数、国・地域数ともに年々増加傾向にある。外国籍県民が増加する中で、多様な文化や民族の違いを理解し、認め合うことのできる人権感覚を児童・生徒に育成することが大切である。

このワークでは、国別外国人数上位（中国：1位、韓国：2位、ブラジル：5位、ペルー：7位）の国の学校の様子を参考にしながら、自分自身のあたり前の感覚を見つめなおし、異なる文化とのつながりがある新しい友だちと、どう関わるとよいかを考えてもらう。外国につながるの友だちだけではなく、すべての人に文化とのつながりや生活環境などの違いがあることを発展的に扱うこともできる。

5 進め方（展開例） 45分（中学校50分）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 8分 （中学校10分）	<p>◆学習の確認 2分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（6分） （中学校8分） 「いろんな学校」</p> <p>①4つの説明文を読み、自分の学校と様子が異なる部分を確認する。併せて4つの国の位置を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 ・ワークシート1を配付する。 ・児童・生徒のつぶやきや発言を聞き取りながら、展開との関わりが深い以下の観点で、興味・関心に応じて確認していく。教育制度は詳しく扱わなくてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・季節（長期休業期間や入学時期を含む） ・給食 ・休み時間 ・下校時刻 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1

	<p>②どの国の学校生活の様子を説明したものか予想し、答えに○をつける。</p> <p>③ペアで○をつけた答えを確認する。</p> <p>④答え合わせをする。</p>	<p>・正答にこだわらず、国や文化によって様々な違いがあることをとらえられるようにする。</p> <p>【答え】 A…韓国、B…ブラジル、C…中国、D…ペルー</p> <p>・季節や長期休業の名称を手がかりとしながら答え合わせをしていくとよい。</p>	
<p>・国や文化によって学校生活に様々な違いがあることを知る。</p>			
<p>展開</p> <p>32分</p> <p>(中学校 35分)</p>	<p>◆アクティビティ (32分 (中学校 35分))</p> <p>「新しい友達」</p> <p>①「授業中」、「休み時間」、「給食」それぞれの場面で転校生が不安に感じていることを想像してワークシートに書く。</p> <p>②転校生とどのように関わるとよいか考え、ワークシートに書く。</p> <p>③①、②についてグループで意見交換をする。</p> <p>④全体に発表し共有する。</p> <p>⑤外国からくる転校生の気持ちを想像し、どのように関わることができるか考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑥ 全体に発表し共有する。</p>	<p>・ワークシート2を配付する。</p> <p>・想像しやすい場面から考えたり書いたりしてよいことを伝える。</p> <p>・児童・生徒の実態に応じて、想像することが困難なことが予想される場合は、自分が県外に転校することになったらどのようなことで不安を感じそうかを想像し、それをもとに考えるよう伝えとよい。</p> <p>・机間指導で活動の様子を確認し、書くことができていない児童・生徒には口頭で聞き取るようにする。</p> <p>・①で想像したことや考えたことが根拠となるため、①での児童・生徒の活動状況を把握し②に取り組むようにする。</p> <p>・3～5人程度のグループで意見交換ができるようにする。</p> <p>・県外への転校と外国への転校とではどのような点に違いがあるかを、ワークシート1を参考にしながら全体で確認する。そのうえで、どのようなことに不安を感じているか①の活動を振り返りながら⑤に取り組むようにする。</p>	<p>・ワークシート2</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <p>・まとめの話を聞く。</p>	<p>・授業をとおして児童・生徒から出された感想をもとに、ねらいを押さえ、まとめる。</p>	
<p>・日常生活で「あたり前」と感じていることには、文化や生活環境が関係しており、それらの状況は一人ひとり異なっていることに気づく。</p> <p>・相手の気持ちに寄り添い、どのように関わることができるかを考えることは一人ひとりの違いを理解し、認め合う関係をつくることへとつながる。</p>			

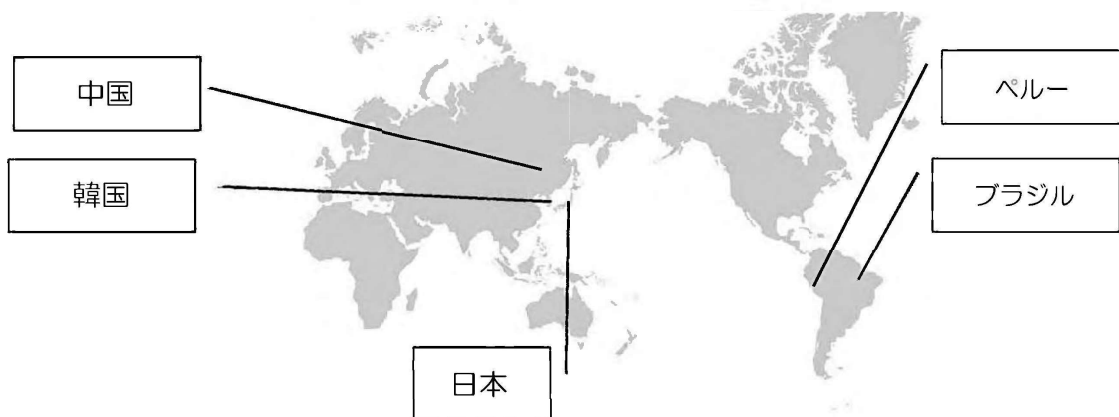
「いろいろな学校」

ワークシート1

()年()組()番 名前_____

次の4つの文は、【中国・韓国・ブラジル・ペルー】いずれかの国の学校の様子を説明したものです。それぞれどの国の様子を説明したものか予想し、国名を○で囲みましょう。

<p>A 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は日本と同じ、6年、3年、3年制です。でも学期が始まるのは日本とちがって3月から翌年の2月と、1カ月ずれています。そのうち12月末から2月までに長い冬休みがあります。夏休みは7月中旬から8月中旬までのおよそ1カ月です。朝は8時ごろに登校して、7時限目が終わる午後4時ごろまで授業を受けます。学校給食の基本的なメニューは、ご飯にしる物、キムチと数種類のおかずで、くぼみのあるステンレス製のトレイに盛ります。</p>	<p>B 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は、日本の小学校と中学校にあたる「基礎教育」が9年間、高校にあたる「中等教育」が3年間あります。授業は平日の半日だけ。午前の部か午後の部かを選ぶことができます。夜の部がある3部制の学校もあります。12月～1月が夏休み。新学期は2月からです。給食はフエイジョン（豆のにこみ料理）とごはん、あるいはサンドイッチといった献立が中心です。サッカーやカポエイラ（格とう技）、ダンスなどさまざまなクラブ活動を行っている学校もあります。</p>
<p>C 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は日本と同じ、6年、3年、3年制です。小学と初級中学の9年間が義務教育です。入学は9月で、1～2月に4週間の冬休み、7～8月に7週間の夏休みがあります。この国では、昼食を食べた後、昼寝を30分ほどします。ゆっくり休んで午後も元気に勉強できるようにしているのです。多くの学校には食堂があり、生徒は食べたいものを自分で選びます。この国では前菜以外、冷たい食べ物を食べる習慣がないので、日本のようなお弁当は持っていきません。</p>	<p>D 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は小学校6年間、中等教育5年間、大学5年間で、義務教育は11年間です。2学期制で、1学期が3～7月、2学期が8～12月。クリスマスから2月末までの2カ月以上が長い夏休みです。制服があり、スカートのたけやかみ型、遅刻には厳しいそうです。特定の学校では給食を出して、子どもたちが学校に行きやすくしています。学校は朝8時から午後1時までなので、給食が出るのはなんと朝！朝食が出るんです。一部ですが昼食も出る学校もありますよ。</p>



新しい友だち

()年()組()番 名前_____

- ① 県外から転校生が来ることになりました。担任^{たんにん}の先生の話によると、その転校生は転校することにとっても不安^ふを感じているそうです。どのようなことを不安^ふに感じていると思いますか。次の3つの場面それぞれで考えましょう。

じゅ 授 業 中	
休み時間	
きゅう 給 食	

- ② 不安^ふに感じている転校生とどのように関わるとよいか考えましょう。

- ③ 外国から転校生が来ることになりました。転校生の気持ちを想像^{そう}し、どのように関わることができるか考えましょう。